<1991>

●私にとっての環境問題（本渡中央 RC 週報）
●文化が徒花とならぬよう（天草文化協会 機関紙「潮騒」第7号
●天草のリゾート構想とコミュータ空港についての意見と要望の具申
並びに通告と提案の書
（五和町長、本渡市長、五和町議会議長、本渡市議会議長、
熊本県知事宛提出）

私にとっての環境問題

写真は家族と一緒のもの
(平成7年5月撮影)に差しかえました

五和　中井俊作

「もし目の前で電車が止まらなかったらあなたはこの世に生まれなかった…。」この言葉が私にとって決定的な自我の目覚めの引金でした。それがいつの頃だったか正確には覚えていません。でも何故か不思議に胸の内に納まって、母を許す気持になったのです。世の母親のような温昌益の言に出会って背骨がシャンとしました。それに、そもそも私が政治家を志した動機は人口問題で、それは食糧問題でもありひいては農林漁業の問題、更には広い意味での環境問題でした。

S51年、本渡市長選挙で世に問うた後、いよいよ直耕の生活に踏込みました。以来14年、田仕事のきつい時には田を築いた人はもっときつかった、戦場で銃を握った人達はもっと辛かったと自らを励まして過ごしてきました。そして野良に立つ内に見えてきたのは「人類という種全体が生物界の特権階級に成上がってアグラをかきつつある姿」でした。

目をこらすと南北問題という形で人が人をいたぶり、その結果お互い違いです。

何故こんな事態に人々は平然としていられるのか？それはこれ程通信手段が発達したにもかかわらず、未だに“痛み”を伝える情報が必要なだけ流れないからです。人の生活態度を戒めるような話は伝えにくいし、人々も受止めたがらない。病気が重くなればなる程事実を自覚したがらない病人の心理のようなものです。社会全体が痛みを受入れる感覚を失いつつある上に更にコワイのは、都市に生まれ育った世代が現場さえ知らないことです。現場の痛みを共有できる原体験がないのですから痛みが伝わる訳がありません。自分達のしていることがどんな結果を招くか知らずに過ごす、これが何よ

もりがない、と言って母を問い詰めた折のことです。

温もりこそ与えてくれなかったものの世の不条理について語ってくれたことどもは私の人生にこれ又決定的な指針となりました。最も戒めになったのは「特権の上にアグラをかく人間は回りを不幸にする」というものです。その後の歩みの中で様々な局面、人や書物との出会いを経て「特権」の解釈にも巾ができました。江戸時代の思想家、安藤昌益に辿り着くのも成行というものでしょう。この人は、たとえ聖人君子といわれようと不耕貧食の徒が世を悪くする、と言い切りました。危険思想家のレッテルを貼るのは簡単です。でも政治家を志す私は「よくおっしゃって下さいました。恥ずかしくない人生を歩みます。」と覚悟を新たにしました。政治の本当の仕事は政治の仕事をなくすこと、と思い定めていた私です。本望を遂げた暁には勿論、政治家として信任されるまでの間直耕（自分の食べる物は自ら耕してまかなう）以外に納得のいく口を支える術は見当りませんでした。でも正直のところ心細かったのです。

の生存基盤そのものを損いつつある。環境に関わるＮＨＫのスペシャル番組をちょっと注意して見て下さい。お察し頂ける映像を目にできるでしょう。詳しい状況はその方面の本に委ねるとして、環境問題に関する無知・無関心・無責任を象徴する良い例がキツイ、キタナイ、キケンな仕事が嫌われているということです。しかもそれを嘆く人はいても自らはとってかわろうとまではしない。そんなことは何も今に始まったことじゃない、と言われればその通りです。でも多分、この態度が私達が日々恩恵を受けている現代文明の致命傷となるでしょう。人のイヤがる仕事もそれなりに引受ける人がいるものだ、ということですが、それは自分よりも立場の弱い人がいることを前提として成立ちます。生活に追われてやむを得ず３Ｋの職場につく、その人達は考えるユトリなどなく現場の環境を損うような仕事をする、いずれ皆が困る事態に立至る。過去の文明が亡びてきた図式と同じですが、現代は史上比較のしょうがない程のぼう大なエネルギーを操作、費消していますから波及力は桁

りも最も危険なことです。‥‥。

ではどうしたら良いのか。気持の上でいうなら痛みを感じた人が自ら痛みを伝えるしか方法がない。

この様な問題意識にこだわって生きるのが私の人生となりました。五和町農協青壮年部長から始まってこの５～６年、年と共に出歩く機会が増えその分野良仕事は家内にシワ寄せされました。とうとう我慢も限界と言われました。これ程身近で過ごしていながら人の汗の重みや思いは伝わりにくい。現場の人の痛み、ましてや環境の痛みが容易に伝わるとは思いません。でも私達は既に間接的な人殺しを始めている状況の上に生きているのも事実なのです。

思えば期せずして預かった中井の家産（これは社会に還元しますが）と母の精神的叱咤あったればこその私の歩みでした。食物の自給の目途もつき長女の保育も一段落したＳ59年春、天草で一緒に暮らそうと母に呼びかけました。３ヶ月程して何気ない電話が一本。そしてその後間もなく母は自らその人生の幕を引きました。どう受け止めたら良いのか、私は画龍点睛と心に刻んでいます。

天草文化協会 機関誌「潮騒」第7号 '91.11.4

文化が徒花とならぬよう

農林業
中井俊作
(五和町)

地から離れた政治は国を滅ぼし、地から離れた文化は徒花となる。文明の興亡を眺めれば一目瞭然のことです。しかし悲しいかな、人は歴史から教訓を引き出す能力を与えられていながら、その教訓をいかす努力はしたがらない。個人の身に置き換えるとよく分かります。元気な人がその不摂生を戒められても養生する人はまずいない。医者に、命に関わると宣告されて初めて取り組むといったところでしょう。では、命に関わると言われて渋々養生するのと、同じ命が懸かるのなら命懸けの仕事を胸に秘めて、積極的に精進するのとではどうでしょう。勿論後者の方が気持ち良い人生となるに違いありません。一念発起するまでは誰しもが安楽な生活を求めるのは世の常です。精進の踏み出しは辛いものですが、戦場で銃を握るよりはマシだ位の鞭打ちを自らに当てていれば、その内身についてくるものです。身近でもその道を歩む精進の人に時々出会います。

言葉ではその通りなのですが、実はこれ又大変難しい。周囲が安楽を求めるような状況で、一人命懸けの精進をしだすと、ハタ迷惑と映ることが間々あるからです。人様の心情を損ねないようにするのに大層な気づかいを要求されます。誰でもそれなりの世間とのシガラミを抱えていますから、それをほどくことの大変さを思って精進の道に至りにくい。それだけではありません。一昔前にくらべて自由のきく現代ではかえって、命を賭けても惜しくないような目標を見つけにくい。これは自分自身がよく分からないということの裏返しでもあります。

ところで、一見自由にあふれているが如き現代は、一方で〝間接的に人殺し〟をしている時代でもあります。それが環境問題。一人ひとりは自分の命にやたらとこだわるにも関わらず、全体の生存については実に無責任。自分たちが〝生物〟であることを忘れているかのようです。食べ物がなければ生きていけないのに、その食べ物を作る人は減るばかり。あげくの果ては〝リゾート〟で地域の生き残りをはかろうという始末。生き残るというなら、食べ物を作るということを真剣に考えなければいけません。環境問題を冷静に捉えれば、間もなく食糧は不足する時代に入るのです。スポーツで汗を流しても、食べ物を作る汗はかきたくないというのなら、このまま作る人は減るばかり。(土地がない人にはそれなりの方法が、お金がない人には精進の道があります!) 人から押しつけられた仕事は誰でもイヤイヤながら取り組みます。逃れられない状況があるのなら進んで取り組めるよう、自分の姿勢を変えるのが一番。

さて、地から離れるとは、例えば、食べ物はお店に行けば買えるのが当たり前と思い込む人が多数を占める状況です。自分は汗をかかなくていい人だと勝手に決めて、現場で誰がどれ程の思いで汗をかいているのか、われ関せずという態度です。そんなことを続けていたら、その内どんな文化作品も徒花となるでしょう。安楽と金銭を求める余り、身の程を忘れて足元を見損なった現代文明も破局を迎えるでしょう。そんなケッタイなことにならぬ内に、大地そのものを自分たちのキャンバスにしようではありませんか!

この世で一番複雑精巧な仕組みは、いうまでもなく自然界の仕組み=生態系です。多種多様な生物が有機的に絡み合いながら成り立たせてきた生命の世界です。それに負けず劣らずの仕組みを一つにまとめて、象徴的に存在するのが

人体です。我々はその人体の仕組みすら自覚することなく、日々平然と〝不適当〟に食物を口にしています。人の生き方の多様性を認めるには、まず、この基本を自覚することから出発せねば。世の諸々の問題をほどく糸口もここにあると考えます。環境問題に取り組むということは、生命の多様性と永続性、そしてそれぞれの〝自由〟を精一杯実現しようとする〝人としての本然の姿〟と言ってよいのでは。文化が徒花とならぬよう。

長崎だより

長崎県文芸協会会長
諸谷義武
（長崎市）

苓州とは天草の古い名称であることを教わったのは、私が富岡小学校の五年生の頃であったように思う。「苓」は「みみなぐさ」という香草であり、薬草でもある。古い時代に天草には、おそらく多種の薬草が繁っていたのであろう。小学校を終えて私は長崎の学校に学んだが、思い出多い故郷のご恩を忘れないように、四女が生まれた時、天草の苓を借りて「苓子」と命名した。その子も今では二女の母親となっている。

天草と長崎とは昔から経済的にも、人的交流にも深い関係があったことは地勢からみても当然ではあるが、特に天草・島原の乱後、天草が幕府直轄の地になってから四百年の間は、富岡にあった代官所は長崎奉行所の出先となって一層その色を濃くしたようである。現在でも、長崎市及びその近郊に居る天草出身者（三世を含む）は約六万五千人と推定されている。従って長崎天草人会は、五島人会、島原人会に次いで大きな同郷団体としてお互いに親睦を深めていた。それも経済界や医学界で大いに活躍された大先輩が多数居られたし、現在も各界で活躍中の方が多いのである。

天草出身の人は性格が素朴で真面目であるとの定評があり、そんな点が人々の信頼を得るのであろう。日本キリスト教の歴史を見れば天草と長崎とは切り離せない深い関係があることが分かる。日本で最も古い教会堂の一つとして国宝に指定されている長崎大浦天主堂は天草出身の小山秀之進建築士が建造したことで有名である。「白秋と共に泊りし天草の大江の宿はバテレンの宿」と詠んだ吉井勇等五人の多感な青年詩歌人達が明治四十年、夏、長崎を旅立って富岡に渡り、天草島内を巡った「五足の靴」も、やはり両地に共通した異国的な歴史に深い興味を抱いて感激した詩情を綴った作品は、当時の日本文学界に大きな金字塔を打ち立てたのである。

幕末のころ、天草有明町大島子にあった豪邸対岳楼に遊んだ文人墨客が描いた詩画の一部を、長い巻物にした「対岳楼記」を戦後間もない頃、私は九州大学の某教授より譲り受けたが、それも私が天草出身であるという理由であった。巻物の作品は皆歴史に残る人達の絵や詩歌の自筆のものである。対岳楼の三字の題字、それに熊本の画家菊地容斎が対岳楼の家並みや遥か雲仙、島原の山々、有明海を取り入れた日本画と長文の画賛、長崎に来遊した中国蘇州の文人沈蓀香、広瀬淡窓、草場佩川、亀田梓等の詩文、中島広足の「海こえの…」和歌等日本全国の文人十二名の名筆が納められていて、当時の対岳楼の眺望が如何に優れていたかを如実に物語っているのである。

ところがその雲仙普賢岳も大きな火砕流を出してから早や数カ月になる。二百年前の大爆発の時は「島原大へん、肥後迷惑」で大きな災害が広範囲にあったことが記録に残されている。

雲仙普賢岳の一日も早い鎮静と、天草・島原間の架橋の早い実現で、両県の交流が益々盛ん

五和町長、本渡市長
五和町議会議長、本渡市議会議長
熊本県知事
宛提出

1991年9月11日

殿

天草郡五和町井手2646
中井 俊作

天草のリゾート構想とコミューター空港についての意見と要望の具申 並びに通告と提案の書

バブル経済がいずれはじけると予測された様に食糧の逼迫する時代が遠からず訪れるでしょう。現在の食糧輸出国がいつまでその立場を維持できるか（環境悪化を防げるか）がその時期を決することになるでしょう。欧州各国が酸性雨で頭を抱えているように日本も遠からず顕著な被害に見舞われるでしょう。日本に続けとばかりアジアの国々（特に中国、朝鮮半島、沿海州）が工業化を進めているのですから不思議ありません。中東ではまだ火種を残したままです。…。

9月5日、NHKのおはようジャーナルで世界子供会議の様子が紹介されました。テーマは「飢え」でした。戦乱、政情、経済の不安定、そして環境悪化。世界各地で多くの子供達が飢えと病に倒れている現実を前にして自分達に何ができるか意見を交しておりました。飢えの原因は子供達が作ったものではありません。全て大人の所業によるものです。結びに示されしい言葉だな、と印象深く耳にしたのは「会議が成功したかどうかはこれからの私達の人生で証すことになるでしょう。将来この地上から飢えを追放できるよう参加者の一人一人が少しでも役立っていれば、その時会議は成功だったと言えるようになると思います。」インタビューを受けた16才の少女の発言はこのような意味あいのものと記憶しています。

飢える人が増える程に地球の環境は悪化していきます。第三世界といわれる国々でこれ程飢えがまん延するのはかつての植民地政策の後遺症とその後の先進諸国の不見識な経済援助並びに経済攻勢によるものです（飢えを過疎地の困窮、植民地政策を高度経済成長、経済援助を補助金行政に置きかえれば日本の農山漁村の置かれた実態は構造的には同じことです。）。植民地を踏台に産業革命で成上がった先進工業諸国は一方で大気、水を汚染し土壌を荒廃させています。後から急速に先進工業国を追い上げ経済大国になった日本はしかし今、世界資源の多消費・環境破壊その結果である経済攻勢で第三世界のみならず先進工業国からすら指弾を受ける様になりました。

今でこそ人は工業化・経済成長の行過ぎを批判できますが実際にはその過程でどれ程多大な努力と犠牲を払ってきたことか、…。でも、しかし…一見優雅な消費生活を「文化生活」といって見せびらかし「金さえあれば」の世界に引ずり込む。目をくらまされた人々はキツイ、キタナイ、キケンな職場

もいとめずに骨身を削る。こうして世界中の自然環境が人々の欲望充足の対象として切売され略奪的に開発・消耗されてきました。どうやらそれもこの20世紀末に限界に近づいた様です。このままの勢いでは間違いなくこの地上は人を養いきれぬようになるでしょう。人間の我ママを野放しにできる程地球は豊かではないのです。

仮に日本人が今以上の生活を求め続けるとしたら——
これから工業化を進め消費生活の向上を目指そうとする第三世界、そして東側の国々の人達に誰が歯止めをかけられるでしょうか？「知足」の倫理感（このところすっかり影をひそめてきましたが）を大切にしてきた日本人こそその歯止めの役割を担っているのではありませんか？この重要な役割を自覚することこそ21世紀に向けての日本人の国際的貢献の第一歩と信じます。

21世紀は現代文明そのものの存続が問われる世紀，飢餓と環境悪化に直面する世紀，人々が己の欲望を見すえ自分自身と斗う世紀となることでしょう。（その前に混乱が起きればそれさえ不可能となりかねません。）これは今日、この地上に繰広げられている事実を整理してみれば明らかなことです。

マスコミに時々見かけるバラ色の高度工業化あるいは脱工業化社会の図は人の体や環境に起こっている重大な変化，現場を担う人々の心身のすさみ等を考慮に入れない空想です。その空想を実現しようと思うならまず身を慎しみ、現場で踏台になっている人々に手を差伸べ（場合によっては身代わりとなり），飢えと環境悪化に然るべき対策を打たねばなりません。勿論食糧やお金を送るだけでは構造的なこの問題の解決にはなりません。

ところで今、多くの日本人はそのような大きな現実には目をそらし証券スキャンダルや政治改革，PKOそして過疎を騒ぎ立てる程度の「最後の宴」に精を出しているといった風情です。
——第三世界で踏台になっている人達から見ればかつての植民地宗主国と同じ穴のムジナとしか映らぬことでしょう。残念ながら…。

—

さて、目を足元の天草に転じてみます。
天草の浮沈をかけたリゾート構想と大仰に言われますが リゾートを口にするにしては産業廃棄物は業者まかせ（処理場の立地に頭を抱えています），

河川，沼海は産業・家庭排水，農薬・化学肥料，養殖などによって水質は悪化の一途（不適切な処理・生活態度・商品流通，農林水産行政・営農指導・農漁法・流通システムと生産者・消費者の無知・無関心・無責任に根ざしまう），自然の浄化装置として機能していた川岸や海辺はコンクリートとブロックで固められ（不適当な設計・工法），地下水はその貯留メカニズムも調査されずに汲上げるばかり，見苦しい広告や看板は自主規制もらできず建物を建てるにしても但々バラバラ，海岸や道にはゴミが散乱，空缶・タバコの吸殻はポイ捨て…環境や景観に配慮しているとはとても言えません。

農漁村の現場では後継者の不足，若年層の流出が嘆かれています。かつては家を継ぐということは生活の保証を与えられる特権であったのに大層な様変わりです。農林漁業ではメシは食えないということですが正確には都市生活者並（これが"人並"の"文化生活"となってしまった）の消費生活を享受できない，俺達も今日の"宴"にあずかりたいということですから間違えてはなりません。水と緑の資源に関しては世界で最も恵まれている地域のひとつであるこの日本で，農林漁業でメシが食えないと言ったら第三世界で呻吟する人達は言うでしょう「それなら私達と代わって下さい」…。

日本企業による森林伐採に困り果てたマレーシアの人が日本での環境問題の会議に招かれた折，飛行機の窓からその景色を見て「日本に木があったのか！」と驚かれたと聞いています。木がないから輸入するのでなく金になるから，金があるから輸入し先方の環境を破壊していくというこの日本の実態。植民地の富（人と自然）を収奪して太った欧米人の生活条件（これを"人並"の文化生活とみなし）ばかりに目を奪われてこの歪みを続けていくとしたら"過ち"を繰返すことになるのは火を見るより明らかです。海外旅行に出る，"外人"を招く程度のことは国際交流ならぬ成金のママゴトと片付けられます。

…。問題は借金ですがこれは第三世界の債務と同じく無理なもの（借金で鎖につなごうという意図が隠されていたなら尚更ですが）は棚上げするしか方法がありますまい。需給関係が自然現象（ばかりでなく人為的なオイルショックや貿易自由化でも）で激変する一次産業にあって机上で見積られた単純な収支計算を根拠に施策をすすめた側に過半の責任があったのですから。にもかかわらずすすめた側は頬かぶり，相応の責任をとっていません。負債を背負った側は未だに必要以上の不条理な汗をかいています。

私達は今いうリゾート構想の前にするべきことがあります。散らかり放題，対策は後手の足元をまずちゃんと整えましょう。住んでいる人間が後始末もできず，安心して

快適に過ごせないところに どうして客人をお招きできますか。あちらこちらの迫を産業廃棄物やゴミで埋め立てておいて あるいは農薬などの扱いに注意を払わず河川の表流水や地下水を安心して飲めるでしょうか？人の健康診断と同様に農耕地を含む自然環境の健康診断が必要で サッ急がれます。住民自体の生活態度も改めねばなりません。それらの必要性を広報にて衆知しかしめるのは行政の重要な役目です。住民相互の情報交換の便宜をはかり，伝達手段を整えることも大切です。それが筋違いのリゾートや空港建設の旗振りに励むとは！チラつかせられるバラ色の夢に人々は足元を見直すどころか 足を浮き立たせ上を見上げるばかりです。本来 リゾートや空港より 島内全域に ケーブルテレビ（CATV）の回線をめぐらせることの方が この先の島づくりをすすめるにあたって優先されるべき有効な施策でしょう（情報操作をするような人に任せたら大変ですが）。

では過疎化・高令化，農林漁業・零細商工業者の窮状にどう対処するのか，ということですが 御心配には及びません。先述した様に遠からず食糧不足，環境悪化，大量生産・大量消費に行詰まる事態に直面しますから国策としても放っておけなくなるでしょう。（しかも この問題は何も天草に限ったことではありません。暮らしやすさという点では 他の地域よりも余程恵まれています。）応急措置としては，PKOならぬ自衛隊の出動を考えざるを得なくなるでしょう。食糧やモノが不足してくれば農林漁業・零細商工業者には自ずと仕事シロが出てきます（それに対する備えは必要ですが）。勿論，それまで手をこまねいている訳にはいきませんから 現場の窮状打開を計るよう中央に働きかけるのは地方自治体の当然のつとめです。具体的には条件不利地域への所得補償（国土・環境保全の代償）といった政策提言となるでしょう。もともと食糧の価格決定を市場メカニズムに委ねること自体が不見識なことなのです（おかげで生産現場の状況が伝わらなくなり 自然の制約条件を無視した生産性でばかり計られるようになりました。その結果 規模拡大・施設化が進み農薬・化学肥料の使用量は増して 環境と食物の質は悪化しました。）。これが一般の社会的認識に至っていないのは 残念では済まされぬ事態ですが それ故に小手先の打開をはかろうとしてリゾート開発などの目論見が浮上してきた訳です。（わかっていて企業活動の便益をはかる為に企図されたとするなら，それは亡国の道に引く暴挙です。そんなことはありますまいが事情にうとい人々は行き間違えますから見過ごせません。）

ここで"リゾート"についても触れておきましょう。

仕事過ぎの日本人が人心地をとり戻すには長期滞在型の保養地が必要では，というのがそもそもの趣旨でしょう。そこは私にも異論ありません。では今日そのおきまりのメニューの第1に登場するゴルフ場ですが，最も保養を必要とする（過労死する程の人達あるいは現場で過度に汗する農林漁業者や零細商工業者）人々がゴルフを楽しんでいるか，はたヌできる状況にあるか？否です。ユトリのある人達の息抜き，スネかじりのスポーツ，接待・つき合いの芸の内，こんなところではないでしょうか。まずもって収益力があると言うところからして動機が不純です。収益に貢献できる程の高所得層に対象が限定されるということではありませんか。ゴルフ場を誘置しようとする人は地元の有力者，客は遠方の高所得層と地元の有資産家や給与所得者の一部，住民は従業員という名の肉体労働者（ずい分気も使うそうですが），表現は悪かったかもしれませんがこれはまさに植民地の図柄です。

ゴルフできるようにしっかり働いてユトリを作ったらいいじゃないか，甲斐性をもて，俺達はそうしてきた，とおっしゃる方もいるでしょう。先進諸国では経済発展をとげるのに過去そのような言葉が励みになったかもしれませんが，現在では皆がそうしようとすれば地球はパンクしてしまうのです。

こんな方策で一次産業のテコ入れになる，地域活性化に役立つなどと考えるのは現場で汗していないネクタイ組（本来この人達は役目柄コトの本質をわきまえていなければならぬのですが）の発想です。真面目に勉学につとめようとしている学生の面前でディスコを開店するが如き無神経なことです。雇用に役立つというのはそこが苦学生のためのアルバイト先になるなどという理屈をこねるのと変わりありません。そんなものを見せつけられたら「金さえあれば」といううっ屈した気分に人が落入ることは明らかでしょう。親は忍び耐えても子供達がどう見るか，（そこそこの消費生活さえ享受できれば事情がわからぬまアッケラカンとしているのでしょうが）日頃青少年の健全育成に声をからす大人達がとるべき態度とは思われません。

人の世の土台を支える汗する者の気持がどうして伝わらぬのでしょう。

体験のない人には農林水産の現場も単なる風景にしか映りません。それが仕事と割切ればなおのことです。多少の体験があっても現場から離れると他人事で済ませてしまいがちです。天草のような地域では役場職員でもまだ兼農している者がそれなりにいますが，近頃は機械で手早く片付けてしまうために土地や自然に対する思い入れが薄くなったようです。

ほとんどの農漁民は人同士，そして自然との絶間なき仕事合い，せめぎ合いの中で土地を動くに動かれず"井の中の蛙"として過ごしてきました。他所でどんなことが起こっているのか知る由もなくやむを得

（天草には原生林的自然はありません。常に人が働きかけ暮らしを立ててきた半自然の里山が農耕地です。）

ず強らしめられてきた人々。（"官費旅行"といえば"出征"ぐらいのもの。それでも天草は四方が海，キリシタンや移民・出稼ぎの歴史もあって風通しは良かった方でしょう。）体を動かさねば緑（雑草木）や水（所により雪，時に日照）に押され負けてしまうことが当り前すぎて言葉にもならない。保存する食物や家屋などを湿気や虫・ネズミなどから守るだけでも並大抵ではありません。都市に生まれ育った人々はそんなことは知りようもなく食料品はスーパーや八百屋，魚屋に行けば買えるものとして安心してしまうのです。カブト虫がデパートで売られるのを不思議と思わぬ子供と同じことです。近頃では料理するのさえ時間がない，面倒臭い…一体何でそんなに忙しいのでしょうか，言葉通り心を亡ぼして仕事に付合いに走り回っている訳です。テレビの映像や文字を通してずい分と情報は流れるようになりましたが魂を抜かれた人々には肉親が戦場にいない湾岸戦争程のこともありません。近頃は農漁民も組合の行事を通して，組合の役員はなおのこと そして都市の人はより自由に飛び回っていますが，消費生活に目をクラまされ こぎ始めた自転車はペダルを踏み続けるしかない と思う人には仕事と付合いと息抜きの趣味以外見えない訳がありません。主婦は家事とパートと育児・子供の教育といったところでしょうか。それで精一杯の気分なのです。借金の鎖つきの人は気が付いたとしても身動きのとりようもありません。これが日本人の眼が曇ってしまった理由です（もともと血に染みついた倫理感覚はあるのに ― 例えば勿体ない とか ブラブラしていると気まずい とか。）。

風土によって培われた勤勉さは限りある地球が意識され始めた今日では その働き方を誤るとかえって始末が悪い。下手に指摘をすれば 仕事に精を出すのが何故いけない，と反発されます。でも最近 シラけやヒガミを通り越して これはおかしい と気が付く人が増えてきました。このままではいけない，何かしなければ… 私もそんな人間の一人という訳です。ただ，家の背景が守ってくれる上に 己の暮らし方で発言しやすい立場を築いてきただけです。

これまでのところをまとめます。

1. 世界はもう今日の日本人の消費生活を続けることを許しておける程豊かではない。（国民の大多数が"土"から離れ過消費の"文明中毒症"に犯されている。）
2. 日本人はまず自らの"文明中毒症"を癒した上で世界にまん延しつつあるその病を防がねば環境悪化と食糧不足で現代文明そのものが破局を迎える。（日本人の国際的貢献。）
3. 今，天草ではリゾート構想の旗を振る前に 環境の診断・保全，住民の生活態度の改善，情報通信手段の整備など なさるべき優先課題がある。
4. ゴルフ場計画は地域の窮状をダシにした時代錯誤の方策である。続行することは住民感情にも沿わず 後世に禍根を残す。

都市の人々は物事のよってきたる因果を知らず，経済的条件が不利な過疎地域の人々は都市の消費生活に目がクラみ，双方共大変"危険"な状態にあります。今はもうゴルフ場を核とするような小手先のリゾートではなく農山漁村の現場から人々の倫理感の励起をはかり，私達の生存基盤そのものを築き直す時代なのです。では，

その視点に立っての天草づくりの私見を記します。

前段で述べたことからお察し頂けると思いますが，目標は日本人のみならず世界にまん延しつつある"文明中毒症"を癒すことにあるのですから壮大です。でもひるむことはありません。いうところの修身斉家治村治国平天下ですから まず我身，足元を整えることから始めれば良いのです。心構えは愚公山を穀す，です。他に道はないのです。

具体的な施策案にはいる前に（世界に仕掛けるということから）日本の位置付け，日本の中での天草の位置付けをしておきます。（非常に重要なことなのです。）

私が留意している点を列記します。

1. 世界の縮図といって良い程の多種多様で四季の変化に富んだ気候風土に恵まれていること。（それぞれの地域が持つ特性と似通った国々とつながりをつけやすい：例えば北海道とヨーロッパ諸国。言葉の壁さえ破れれば日本人はコスモポリタンになりやすい。）
2. 白人優越観に抵抗する力量を証してきたこと。（有色人種としてどちらの側にも話がしやすい。）
3. 欧米（白人）諸国程"手が汚れていない"こと。（かつての植民地支配，奴隷貿易。現在の兵器輸出，既得権保護，人種差別などで欧米人に心を開けない人々は多い。）
4. 世界史的な宗教戦争に巻き込まれていないこと。（イスラム世界との関係を持ちやすい。ユダヤ問題も抱えていない：ユダヤ人に特別な悪感情や警戒心を持たずに済んでいる。）
5. 東洋と西洋の文化の恩恵を程々に受け，それをかみ砕いて日常生活に役立ててきたこと。（東・西相互理解の橋渡し役として思返しできる。）
6. 国内に南北問題と共通する構造の過疎（農山漁村）・過密（都市）問題を程々に抱えていること。（南北問題を身近に考えやすい…実際にはそう意識されているとはとても言えませんが。）
7. 世界史的に価値ある平和憲法を有すること。（日本人の国際貢献のあり方を示し，パスポートの"貴重な裏書"となる。）
8. 経済大国化した日本とは別の"もうひとつの日本"の国際的貢献を待望する気運が高まりつつあること。（上記1～7の諸点を具備する国は他にないのです＝これ等を活かし切れば21世紀は日本の世紀といわれても不思議ではありません。但しまずは日本人の文明中毒症を癒すことが前提となりますが…。）

○第8点の"もうひとつの日本"について若干の説明を加えておきます。

折しも熊本でハーン，ジェーンズを記念する催しが開かれましたが，彼等明治に日

本に渡ってきた欧米の人々の目に等しく映った日本人の美点：調和・協同を尊ぶ精神，宇宙・他の生命との一体的認識に基く自然・生命観，知己知足・知行合一をめざす倫理・道徳感，臨機応変・融通無碍なる柔軟性，進取の気性・知的向上心強く卒先垂範の勤労意欲は高く，事にあたっては国際武士道を唸らせる見事な事態打開力・フェアプレイ，文武両道をたてるバランス感覚（しかも文の究極は無私，武の究極は非戦＝戦わずしておさめる）そしてそれ等を日常的に実践表現する質実剛健・晴耕雨読的生活態度，その中にほのかに漂う深い情愛…日本の歴史・風土が連綿と培い磨いてきた文化的精神基盤の発露，これがもうひとつの日本の姿です。

しかし残念なことには"発露"の言葉通り一時的な現象に終りました。明治維新という（世界史的にも稀有な）無血革命に近い国内激動期を経，硬直化した封建制が打破されたすがすがしさと新生日本に対する期待，そして欧米列強を前にして国民総必死といって良い対外緊張感あふれる情況がそうさせたのでしょう。ハーンもジェーンズもこの美風が失われて行く様を惜しみ恐れています。日露戦争の勝利は幸が災に転じる決定的な出来事となりました。既得権を握った者達は，血のにじむ努力・多数の生命と引換に得た奇跡的な成果をあたかも己の才覚で占めた地歩であるかの如く思い上がって，この後大陸侵攻，大東亜戦争への道へと歩みを進めて行きます。真の事情がわからぬ（伝わらぬ）大多数の日本人は"大本営発表"に浮かれて（折角のその魂は）骨抜となりました。

日本の位置付けの項であと二つのことに触れておきます。

その1. 成人病・心身症・エイズなど"文明中毒症"の自覚不足で自業自得の先進諸国，そして途上国のお金持（特権階級）。第三世界の飢えと対照的な飽食の図ですが，その分健康管理に目が向いてきました。そこで注目を集めつつあるのが日本人の平均寿命の伸び。但し取り違えてはいけません。これは今日の食生活環境の（中身の薄い）豊かさの成果ではありません（それどころか「4年寿命説」という本まで著わされて警告を受ける現状です）。一世代二世代も過去の，無自覚に近い食養生の結果なのです。（無自覚⇒日露戦勝型"自らを位置付けできない日本人"の悲しいところですが，一昔前の欧米の栄養学に基く食生活向上スローガンの旗が振られている最中は必死になっても腹八分目という食生活，その過程で病弱な人は淘汰されてしまった。これが長寿者が多い秘密で乳幼児の死亡率低下と共に平均寿命を伸ばすのに役立ちました。）その背景にあったのが身土不二・一物全体，旬のものを保存食（穀・種子類，野菜・海草・魚などの干物，漬物・醸造品）ととり合わせて自給的に口にするという腹八分目の養生法（日本型食生活＝肉・砂糖・乳製品の消費は限られ，雑穀などの未精白穀類は多く，固く繊維に富むので自ずと良く咀む）でした。

今、健康管理の土台ともなるこの日本の食生活に関わる知恵の集積＝食養生法が改めて見直されつつあります。（それが食糧自給率が先進国で最低，更なる輸入自由化圧力の前に"米"まで開放の可能性が云々されるとは皮肉を通りこして気違い沙汰です。元来食糧生産を国際分業論の対象にするなどは食養生どころか経済学――今までの経済学は利権学とでも言い変えた方が適当です――・地政学の基本もわきまえぬ国際政治オンチの極楽トンボとしか言いようがありません。）又、食養生と車の両輪の如く対になって相乗的に機能する健康（養生）法に関しても，東洋的な様々な方法（中国の気功，それを源流とする針灸・指圧・マッサージ・操体・整体・呼吸・瞑想の各法それに漢方やヨガなど）が伝承・蓄積されているのも大変心強いことです。

なお具体的施策のところで後述するマクロビオティックの運動はこの食養生法に端を発しています。

その2.

電子工学・IC産業のめざましい発達で（NHK番組の「電子立国日本の自叙伝」シリーズをご覧になりましたか？技術開発の苦労が実によくわかります。）通信技術は飛躍的に向上，関連機器の開発・生産も進み，情報伝達・蓄積・処理の面で世界を担える程の力量を持ったこと（経済大国化した最大の成果は何か？と問われたら私はためらいなくこの点をあげます。）。通信手段は人間社会の神経回路に相当します。情報が迅速・正確に伝わらなければいくら民主々義といっても個々人は判断の下しようがなく，従って社会システムの運営がまともにできる訳がありません。今、人類は何をしているか，地球（環境）に何が起こっているか，当面はこれだけでも（国連広報として）映像化して送る必要があります。そのための通信網を世界中に不足なくめぐらせることは国際社会の最優先課題と考えます。自業自得の因果関係を納得しなければ人はその態度・行動を変えようとしませんから，この先の地球規模の"人類が引起こしつつある全生命を脅かす問題"を争うことなく（争いを起こせば全てがオシマイになりかねません）こなすには必要不可欠の手だてなのです。（まずは軍事に費す財源・人員・施設・システムを転用し最大限に活用したいところです。）

この情報通信網を如何に布設し役立てるか，そこに"もうひとつの日本"をわきまえ前述の1～7の点を活かしやる日本人の役割があると確信します。

（以上を念頭にこの先は要点のみ記し解説は後段に回します。）

では日本の中での天草の位置づけに移り，その留意点を列記します。

1、天草は西南日本の縮図（モデルになりやすい），極東日本の西端にあってアジアに開く窓といって良いこと（互いに親近感を持ちやすい）
2、これといった歴史に残る権力者をいだかなかったこと。（大した遺跡がない＝民衆の生活の島＝おもねず飾らずに澄んだ眼で世の中を眺めやすい）
3、早くから海外の風に触れ（キリシタン文化），国内はもとより南方へ、そして世界各地へ出稼者、移住者を多く出していること。（開放感を生み視野を世界に広げやすい）
4、地理的ハンディが逆に"文明中毒症"の感染を防いできたこと。（地形上のハンディは農業の大規模化を進めにくくした＝日本の農山漁村の原型を比較的維持している＝土離れした都市の人間に親しみやすく追体験しやすい）
5、適度の広さの島故に農林水産が一通り揃っていて自給自足が可能なこと。（日本型食生活を実践しやすい。暮らしやすい自然条件→個人でも自給自足可能→文明中毒症を癒す早道→"日本"を認識しやすい）
6、里山的雑木林が多く残されていること。（豊かな生態系を維持しやすい）
7、東支那海，有明海，不知火海と性格の異なる海に面し，変化に富む海岸線と豊かな水産資源に恵まれていること。（多種多様な沿岸・沿海漁法は水産国日本を認識しやすい）
8　各地に散った天草出身者は愛郷心に富んでいること。（交流をしやすい）

日本と天草の位置付けをまとめてみます。
1、今日の日本程国際社会の調整役を果たすにふさわしい背景を持つ国は他にない。
2、日本人はその風土によって培われ、磨かれてきた文化的精神基盤の中に（人間として）世界から信頼を寄せられるに足る資質（美徳）を秘めている。→但しその資質は文明中毒症を癒さなければ発揮されない。
3、文明中毒症を癒す鍵（養生法－食養生は土台）は日本の内にあり、かつ日本は癒しやすい条件（水と緑，土と陽光に恵まれており その気になれば自給自足可能な自然条件。高度な通信技術を駆使できる社会条件。）に恵まれている。
4、天草は現状のままでも"日本を知る"モデルになりやすい自然・社会条件を残している。文明中毒症を癒しやすいことは勿論、国内、海外各地へと癒しの輪を広げやすい。（これ程地域ぐるみで取組やすい条件を備えているところは他にありますまい。―私が天草を"宝島"と思い入れるゆえんです。）

具体的な施策案にはいります。

今まで述べてきたことでおわかり頂けるでしょうが ゴルフ場予定地の扱いについては次の制約条件を念頭におきます。

1、環境を保全すること。(地下水・表流水の水質，保水力などに悪影響を及ぼさないこと)

2、予定地に生活基盤を置く人の生活を侵害しないこと。

3、その人達だけでなく周囲の住民の生活とも融和し、お互いに喜びあえる関係を持てるような人の交流を生む場であること。

以上は最低限の配慮ですが 目標は 文明中毒症を癒すことに置くのですから，天草の"顔"になるに ふさわしいこの土地には その核ともなる活動拠点を配置するべきでしょう。私は (仮称)マクロビオティック センターを置くことを提案します。マクロビオティックの運動についての私の解説は後段に回して、ここでは別紙資料①~②に目を通して下さい。内容は最近出版されたマクロビオティックの本，「穀菜食のABC」の序文ですが 日本でまだ一般にはなじみのないこの運動がどれ程日本にゆかりがあり 又"文明中毒症"の癒しに有効か ということがお察し頂けると思います。

このセンターを核にして (列記にとどめます)

① 安全で安定した食糧の確保 → 天草を有機農業の島に
(消費者との提携・交流 ― 供給先の保証)
・有用植物園 (在来種の種苗保存 など)

② 情報通信手段の活用 → CATVの全島ネット化 (住民相互，来訪者への情報サービス，行政広報 …)

③ ソフトエネルギー供給技術の開発と応用 → バイオマス，潮汐流，太陽熱，風力利用など

④ 環境保全・修復型技術の 〃 と 〃 → 土壌浄化法の活用，生態系に配慮した里山利用，リサイクル事業(静脈産業)の展開

⑤ "天草の船"の建造(又は中古船改造)・運航 → 物産の交易と人の交流

(③、④でソフトテクノロジーリサーチアイランド)

核になるマクロビオティックセンター(養生園)は日本人の日常生活そのものが癒し→"生命"への目覚めにつながるという道標になります。
(日本人にとって究極のリゾートは"晴耕雨読"という訳です)
資本投下が少なくて済みますからお金がそんなにいりません。
(日本型リゾートの本来の姿)

この様な方向でゴルフ場予定地の扱い、天草の島作りが進められるなら現在計画中のコミュニティー空港の用地は勿論、私が所有する山林150ha相当を無償提供します。 └(立木は活用のためひきとらせて頂きます)

言いかえると空港建設に関わる条件付同意の条件とは次の三点となります。(先日お渡ししたメモの通りです)

① 五和・本渡地区に予定されているゴルフ場建設計画を中止すること。
② 既に取得された土地は環境保全上十分な対策がたてられかつ一般に好ましい活用(健康保安林的活用あるいは里山としての入会的利用など)がはかられるよう公有地とすること。
③ 佐伊津層地下水の動態メカニズムの調査・解明と今後の保全対策をたてること。(但し空港建設が佐伊津層地下水保全に悪影響を及ぼすことが懸念される場合は空港予定地を変更するか、この計画自体を断念すること。)

従ってこの3点の条件を満たして頂けない場合は空港用地を提供する意志はありません。

この先は後段として後日提出します。← エンピツで書き添え
(解説、補足など)

P4まで9月12日提出
P6(+資料①.②)まで9月25日提出

その後ペンをとらめます…。
'94.8.4、契約書に調印
(ゴルフ場実現は不可能と判断して)

(94.6.13 中村町長引責辞任.
7.18 町長選の結果如何にかかわらず空港用地を譲る旨記者会見にて公表する。
7.24 町長選:3位にて落選)

⑥

資料①

日本語版への序

人類が、この地球の上に進化の歩みを始めてから、おそらく二百数十万年が経過していることでしょう。その悠久ともいえる人類の歩みはともかくとして、いわゆるホモ・サピエンス（知性人類）が発生して以来の数十万年の歴史の中で、この現代ほど地球的なスケールで、全人類が危機に直面してきたことは、――いくつかの天変地異や大洪水を除いて――おそらく無かったのではあるまいかと思われます。現代、私たち文明人が、――民族や国籍、宗教や文化、職業やイデオロギーのいかんにかかわらず――個人も家庭も、また市町村も、国家や国際社会も、ひとしく直面しているこの危機は、人類の生物学的な退化の潮流であります。

この生物学的退化の潮流は、その規模の大きさにおいて、人類の大半を滅ぼしたと伝承されるノアの大洪水にまさるとも劣らないものであります。この退化の潮流は、近代の科学・物質文明が、宿命的に内包している対立的な世界観に起源を発しています。この世界観は、個人と個人、グループとグループ、企業と企業、国家と国家、宗教と宗教、イデオロギーとイデオロギー、人種と人種とを対立抗争させ、そしてさらに、人類と自然とを対立させて、宇宙の秩序や天地の運行や自然の推移に反対抵抗する人工の環境と、生活様式（ライフスタイル）と食生活を、いわゆる文明の繁栄という輝かしい美名のもとに押しすすめ、物質的な豊富と経済的な効果を第一義としたいわゆる文明生活を、あらゆる大陸やあらゆる社会に及ぼしてきました。

この潮流は、その出発点である根本の世界観がそうであるように、あまりにも多くの点で自然の秩序に反するために、悠久なる地球自然の推移とともに進化発展してきた人類という「種」を、その素質のすべて――すなわち、肉体的、心理的、精神的――にわたって混乱させ、変質させ、心臓病、ガン、神経病、アレルギー、その他、夥だしい退行性疾患を蔓延させ、ヴィルスやバクテリアに対する抗体性を失わせ、心理不安、デプレス、精神の錯乱を招き、暴力や破壊行為、殺人や戦争を起こさせ、空気や水や土を汚染変質して、遂には、人類社会の崩壊と、人類という「種」の衰滅を招来するものであります。

こうした生物学的危機から、人類を解放するために、自然と社会の環境を浄化し、農水産物をふたたび自然の有機生産に還元し、自然の秩序に調和した健康な「人間」としての食生活を確立し、宇宙とそのうちに顕現されるすべての現象や生命がその本質において一つであること、この地球自然とその内に生きる人間とが一体であること、そして、すべての人類は――人種、民族、宗教、文化、慣習を越えて――兄弟姉妹であること、の自覚に開眼し、健康で平和な霊的に進化した人類によるただ一つの世界を創造したいと思います。

ギリシア古代の言葉である、マクロビオティック（大いなる宇宙秩序に調和した生活）と私たちが欧米の世界で呼んでいるこの人類の思想と生活の大転換運動は、故桜沢如一先生（ジョージ・オーサワ）が、一九六〇年代にフラン

ス、ベルギーなどで火をつけられましたが、その後私たちは、文明のすべての領域にわたる転換を招来するために、欧米をはじめ、全世界に自然食運動を開発、展開し、有機農法、自然農法を推進し、あらゆる種類の病人を指導し、個人や家庭のもろもろの悩みに助言をし、すべての人々が、生物学的な――肉体的、心理的、精神的、したがって、必然的に社会的な――進化の道を歩むことを悲願として、世界的スケールの社会教育を展開してきました。

この三十数年にわたる教育啓蒙運動の結果、欧米を中心として、自由諸国、社会主義国、発展国、発展途上国のいかんにかかわらず、すべての大陸、数十カ国におそらく一千万を越す多くの人々が、健康と理解、平和と進化への道を歩みはじめています。

この書物は、その思想と実践の基本を――ことに食生活を中心として――紹介する一般向けの概要ですが、日本の皆さまには、これを通読して御理解いただけるように、この全人類の生物学的革命の根幹を成しているものは、まさしく、東洋の、そして、とくに日本の伝統的な世界観、人生観と、その食生活にあります。いまや、この二十世紀末は衰滅に向って急速に退化しつつある人類を―アメリカでも、ヨーロッパでも、アジアでも、オーストラリアでも、アフリカでも、そして地球上のいかなる地域においても―その危機から救済する鍵が、東洋、そして日本の生理学的、精神的な伝統のなかに脈々と流れてきていたことを御理解いただきたいと思います。

日本人が、全世界の人類の幸福に貢献できるものは、決して、電子工学や、道路交通の器機や、いわゆるハイテクノロジーだけではありません。日本人が、常に人類の進化に貢献できるものは、幾万年にもわたって、永世に地球人類の「種」の進化に貢献しつづけるもの、それは、有史以来、日本民族が培ってきた宇宙観と人生観、和と恩の精神、穀物を主食とした食体系とそれを保証する自然有機農法、そして、すべてに調和し、すべてのうちに霊性、神性を観取してゆこうとする日常の生活そのものなのです。

どうか、このささやかな素朴な書物が、世界の他の地域とおなじく、急速に人間性の退化がひろがりつつある現在の日本の社会にお住みになる、皆さまの人生を転換するための何らかの指針のお役に立てば幸いと思います。

この書の原本は、私の数十冊の他の書物や数百の論文がそうであるように英文で、米国のエヴェリー・パピリッシンググループの出版になるものですが、他の主要な外国語には、他の書物とおなじく、翻訳されてそれぞれの国で出版されています。日本語訳と、その出版は、多年志をおなじくする大阪の正食協会の皆さま方の御努力に負うものです。ここに、深く感謝申し上げます。

一九九一年八月

久司道夫

米国、マサチューセッツ州ブルックラインにて

資料 ②

序

歴史上、最初にマクロビオティックという言葉を使ったのは、西洋医学の父ヒポクラテスです。ヒポクラテスは「空気・水・場所について」というエッセーの中でこの語を用いて、健全で長生きの人を指しました。ギリシャ語で「マクロ」は「大きい」、「ビオ」または「バイオ」は「生命」という意味です。ヘロドトス、アリストテレス、ガレノスその他の古代の哲学者も、マクロビオティックという語を使いました。そしてそれは「簡素でバランスのとれた食事をする生活法」を指し、それによって「健康で長生きをする」とされました。

一八世紀後半、ドイツの医師かつ哲学者であるクリストフ・W・フーフェラントにより、この言葉は再び日の目をみることになります。フーフェラントは「マクロビオティック長寿法」という題名の、食事と健康に関する有名な本を書いたのです。

それからほぼ一世紀たって後、今度は日本でマクロビオティックという言葉は蘇りました。これには医師石塚左玄氏と桜沢如一氏の二人が関わっています。二人とも、玄米・味噌汁・海草・その他の伝統的な食べ物からなる簡素な食事をすることによって、重い病を治しました。その後、二人とも何年もかけて研究を重ね、東洋医学と東洋哲学を、ユダヤ・キリスト教の教義や現代科学・医療にあるホリスティックな観点と統合させました。桜沢氏は一九二〇年代にパリに行き、自分の到達した生活法を普及させるべく活動を行います。そして、後にジョージ・オーサワと名のって、自分の教えに「マクロビオティック」という言葉をあてました。

桜沢氏は、病気を治してから七四歳で亡くなる時まで、現代生活に合うようにマクロビオティックを改良していきました。彼は、マクロビオティックのライフ・スタイル普及のために、三〇カ国以上を訪れ、七〇〇〇回以上の講演を行い、その著書は三〇〇冊を越えます。

桜沢氏には多くの弟子がいました。そのうちの一人が、この本の著者である久司道夫氏です。久司氏は一九二六年生まれ。東京大学で国際法を学んだ後、一九四九年にアメリカにやってきて、ニューヨークのコロンビア大学で研究を続けるかたわら、アメリカでマクロビオティックの食事法・健康法を教えるようになりました。そしてマクロビオティックと自然治癒のことを広めていくうちに、これを自分の一生涯の仕事とすることになりました。

久司氏がマクロビオティックを教え始めた頃、相手は、学ぶ意欲はあるのだけれども自然なままの質素な食事にはどうも馴染めないという人ばかりでした。そこで久司氏は、マクロビオティックの食事の基本は崩さずに現代風の味覚に合わせる必要を感じ、長年にわたって世界中を回り、マクロビオティックの講演をしました。久司氏と彼の仲間は、ニューヨークの国際連合にもたびたび呼ばれて講演をしています。国連にはマクロビオティックの会もできました。

マクロビオティックでは、全粒穀物・豆類・その土地でとれる野菜が、主要なエネルギー・栄養源になるとされています。他には、栄養価の高い大豆製品。これは東洋で何百年来食べられています。それからミネラルに富んだ海産物として、海草と、ある種の魚。マクロビオティックの食事では、牛肉と鶏の代りに白身魚と甲殻類を適量摂ります。現代の食事で幅を利かせている精製塩と砂糖の代りに、自然塩と、穀物から作った甘味料（米飴・麦芽飴）を使います。

久司道夫氏がこの仕事にとりかかり、人々に健康な食事法・生活法を勧めた初期の時代には、よい食品を見つけるのに苦労したといいます。

また、マクロビオティックの研究・発展のため、久司夫妻はイースト・ウエスト財団と久司学院という非営利の教育機関も設立しました。さらに「イースト・ウエスト・ジャーナル」という月刊誌を発刊し、これは現在、世界中で七五〇〇〇部以上出ています。そして、夫妻には五人の子どもと五人の孫がいます。

（後略）

スティーブン・ブラウアー

マサチューセッツ州・ボストンにて

「穀菜食のABC」

久司道夫著

山脇啓央訳

正食出版 発行

（大阪市 中央区 内淡路町 二の一の一）

〒五四〇

tel 06-941-7506

Fax 06-941-7039

平成4年10月1日

中村五和町長、井星五和町議会議長並びに議員各位
スズ山本渡市長、市議会議長並びに議員各位
福島熊本県知事　殿

天草郡五和町大字井手2646
中井俊作

「天草のリゾート構想とコミューター空港についての意見と要望の具申並びに通告と提案の書」の内容一部削除についてのお知らせ

昨年の9月（12日に前段，25日に中段を）提出した標記文書の⑥頁右面，上から7行目～10行目（以下に書き抜きます）

『この様な方向でゴルフ場予定地の扱い，天草の島作りが進められるなら現在計画中のコミューター空港の用地は勿論，私が所有する山林150ha相当を無償提供します。　L（立木は活用のためひきとらせて頂きます）』

の部分を削除しますのでお知らせいたします。

以上

五和町：田中企画開発課長（町長分），中野議会事務局長（議長、議員分）手渡し
本渡市：秋津課女性課員（市長分）　議会事務局長（〃　〃）手渡し
県事務所：田田総務振興課長へ手渡し
記者クラブ、10°～記者会見の席にて　本渡市・前田課長、五和町・宮崎課員が傍聴

中井用箋

熊日

平成 4年(1992年) 10月9日 金曜日

天草のゴルフ場用地買収

西武、交渉参加拒む

開発計画、厳しい局面に

西武鉄道グループが本渡市と天草郡五和町にまたがる地域に計画中のゴルフ場開発で、難航しているゴルフ場用地の買収交渉に「西武側は直接関与できない」と西武不動産が県に伝えていたことが八日、分かった。

西武関係者は、福島知事が事態打開策として要望している同グループの堤義明会長との会談を設定できないこともあり得るとしており、ゴルフ場開発は極めて厳しい局面に立たされている。

同ゴルフ場計画は、西武鉄道と本渡、五和両市町との用地買収事務委託契約が八月二十五日に期限切れしたため、福島知事、久々山義人本渡市長、中村正人五和町長が同日、トップ会談。知事は九月中にも堤会長と会い、①西武鉄道が用地交渉に直接関与する②買収事務委託を一年間再々延長する―などを要望することを明らかにしていた。

その後、県の事務当局と西武関係者が交渉を重ねているが、西武側は「地元の事情に熟知している両市町が全力で当たってもうまくいかない用地交渉に、西武が参加しても交渉をまとめる自信はない」などとして、用地買収への直接関与を拒否したという。

これについて、西武不動産は「コメントできない」(広報課)としているものの、西武関係者は「堤会長と福島知事の会談を設定するかどうかは決めていない。会談が設定できない可能性もある」と言っている。ただ、同関係者は「西武鉄道の方から開発計画の断念を地元に伝えることはない」としている。

これに対し、県は「現行の買収事務委託契約をそのまま延長しても、事態が進展するとは思えない。非常に厳しい見通しになった」(商工観光労働部)と危機感を募らせている。

県によると、ゴルフ場の必要面積百十二・三㌶のうち、地権者と売買契約済みの面積は八月二十五日現在で九十三・三㌶。その後は買収事務委託契約が失効したため、用地交渉は中断している。

熊日 '92 10.2.

天草空港

ゴルフ場建設姿勢に反発

「用地無償提供せぬ」

大口地権者 県などに通告

天草空港建設予定地の大口地権者で天草郡五和町并手の農林業中井俊作さん(四五)は一日、県と本渡市、五和町に対して「昨年提出した通告書のうち『自分所有の空港用地及び山林を無償提供する』の部分を削除する」と文書で通知した。

中井さんは両市町に西武鉄道(本社・所沢市)が開発を予定しているゴルフ場の建設反対派世話人。昨年五月両市町と県に対し「ゴルフ場計画中止」を前提とする地域づくり提案を盛り込んだ通告書を提出。この中で「条件が受け入れられれば自分の用地(山林)約百五十三㌶を無償提供する」と伝えていた。

中井さんによると「無償提供」削除を通知した理由として①通告から一年経過したが提案条件が検討されてもいない②ゴルフ場建設の積極姿勢も変わっていない―などを指摘。特に先月下旬のテレビ報道で福島知事が「天草空港はできつつある」と発言したのは県民に重大な誤解を招く、と反発している。

同空港についても、(これまで)地元選出県議との話し合いなどから条件付き同意の立場をとってきたが、本来は空港にも反対、とした上で「行政がゴルフ場にこだわる限り空港用地は売らない。どうしてもというなら強制収用してほしい」としている。同空港は県が本渡市枦の原から五和町城木場地区にかけて建設(平成七年開港)を予定。今年夏から用地買収の個別交渉中で、両市町で六五%の地権者が同意している。中井さんの用地は空港本体のほぼ中心部分で約三㌶。

熊本県弁護士会の報 第8号（平成3年1月）

年頭所感

（裸足で大地にアースする癒しの里）

竹中敏彦

新年おめでとうございます。

年頭にあたって申し上げるべきことはいろいろあるのですが、それは、あえて、さておかせいただきまして、申し述べたい「感激」をお伝えしたいと思います。

◆　◆　◆　◆　◆

夕べ、私の事務所に一人の男が泊った。彼はいつものようにシュラフ（寝袋）持参である。外でも泊れる羽毛のつまった米軍払下げ品という。事務所で月一回開かれる「ゴルフ場問題を考える熊本県連絡会」に彼も参加し、会議が終った後一泊することになった。電燈を消し、彼はシュラフに、私は布団に入って、かれこれ二時間ほども話したろうか。

彼は、この春予定されているある自治体の首長選に立候補するという。

一月一日から家族と別居して彼の行脚がはじまった。地元の農家などを一軒一軒シュラフを持って歩いて回る。一日一軒一泊。

農作業などの手伝いをする。ごはんを食べさせてもらう。無論お客さんとしてではなく、お手伝いとしてである。仕事のことを教わったり、抱えている問題をあれこれ話してもらう。相手の仕事の中断、停滞のないように。風呂をいただくときは終い湯である。

選挙に金をかける気持ちなど微塵もない。当選したらどうするか。

まず、月額六十万円の報酬はこう使う。一人につき六万円支払って十人の後継者を養成する。彼らも彼と同様「奉

仕先」をみつけて生活する。勉強は彼の開く塾でする。塾は先祖の残してくれた母屋である。

ここにこの十数年にわたって彼が学んだ本がある。地球の環境保護問題、エネルギー問題、人口問題、民族問題、歴史物、イスラエルのキブツに関する資料、安藤昌益の著作等々。これらとみずから収録したのべ四、〇〇〇メートルをこえるビデオが教材となる。彼の後継者は彼のもとで学んだ後、金のかかる選挙の廃絶と太陽の立場にたって真に住民に奉仕する政治の実現をめざして日本中に羽ばたいていく。

現在地元に計画されているゴルフ場建設に彼は反対である。予定地は既に自治体所有地になっている。彼は、ゴルフ場をつくるのをやめて、ここに癒しの里をつくるという。里の中の田畑で患者たちは自然農法により自給自足生活をする。患者は、時には裸足になってしっかり大地にアースしながら、みずから耕し、みずからを癒す。インド伝承医学を修めた医師らを招き、手術や化学薬品に頼らぬ医療を施す。

彼が先祖から引き継いだ田畑、山林は昔の小作人への恩返し（清算）をするべく、癒しの里に付属させるという。彼の思想の原点は安藤昌益のようである。安藤昌益にほめられるような生き方をしたい、政治をしたいと、彼はいう。

◆　◆　◆　◆

四月になったら一度彼のところを訪ねてみたいと思う。彼の言葉で私が一番気に入っているのは「自分の食べ物を自分でつくることは人間の基本的人権である」ということだ。私もそう努めたいし、多くの会員の皆様にも是非そのゆとりをもってほしいと願う次第である。くれぐれも、働きすぎで過労死などしないように、また、農薬や食品添加物で汚染された有害食品で難病になったり、命を縮めたりすることのないように、会員の皆様及びご家族の皆様方が自ら創造されるよう、年頭にあたって心からお祈り申し上げます。

第17回 天草環境会議 資料集

2000.7月

"天草空港"をめぐる思い

元地権者　中井　俊作

★　人間の我ママを野放しにできる程、地球は豊かではない。

～～～～何故用地交渉に応じたか、を横に置き、まず公約した会計報告～～～～

どんぶり勘定的ですが、今日までの収支内訳の概要です。
（単位は万円、端数は四捨五入）

入金	（９４年９月）用地補償金（３ｈａ余）		１，１５９
	（９５年４月）立木補償金（３５年生桧）		１，３８５
	今日までの預金利息		３６
		計	２，５８０
支出	（９４年９月）自然エネルギー研究開発債務返済		４８５
	（９６年４月）阪神淡路震災被災者の緊急融資		４５０
	（９７年４月）朝やけ農場アマゾンプロジェクト救援融資		６００
	（９８年１２月）恩師の死去に伴う家庭問題の支援(用立て)		１３０
	（９５年～００年）諸経費		３３５
	その内訳：立木伐採、搬出経費	７６	
	製材費（天草森林組合）	３２	
	工具、備品購入（チェーンソーなど）	１９	
	建材、建具運搬経費（東京より）	２７	
	資材、消耗品、水道料など	４	
	火災保険など	２５	
	公租公課	６８	
	棟（むね）建屋（瀬瓦）修繕	５２	
	白蟻駆除	１８	
	古本着払い料金支払い	１４	
		計	２，０００

２５８０ － ２０００で
差し引き　５８０（現在の残高）

その内訳 ※	未来バンク預金	１００	※未来バンク：志のある事業に融資しない市民銀行（利息はつかない）の東京にある。
	郵便局定期定額	２５０	
	普通預金口座	２２９	
		５７９（四捨五入のため１の差）	

［解説］

中井　俊作

○　用地補償金　：換地購入資金とするのが順当なお金

○　立木　〃　：造林・育林に要した経費の補償 →新たな造林・育林資金とするのが順当なお金

：見込み得る林業収入の補償 →家計（生活費）に充当するのが順当なお金

：契約上は立木の伐採、搬出経費（サラ地にして引渡す）も含まれているのでその作業経費の支払いにあてるお金

これが補償金の使途の原則的用い方とするならあえて公表するまでもないのですが、

○　強制収容にまで至れば補償額の４割（約１，０００万円）は譲渡所得税を徴収されることになる。（租税特別措置法：公共用地として譲渡した場合の非課税措置の適用を受けられなくなる）

○　関係自治体（五和町、本渡市、熊本県）がゴルフ場計画を中止し然るべき環境保全策をこうじるなら空港用地は無償提供すると申し出た（’９１年秋）が何の応答もなかった（ゴルフ場予定地に換地を要求したかったところを遠慮して譲歩案として提案したのですが）

そこで（本来受け取る意志のないお金を手にする以上、それにふさわしい用い方を考えて）

1．　１，０００万円は天草環境基金としてプール（２００１年以降の活動に備える）

2．　５００万円はゴルフ場予定地土地取得資金として留保（ゴルフ場反対地権者に土地を売却せざるを得ぬ事情が生じたら買い受けられるように）

とまず１，５００万円分の使途を限定。次に当時本渡五和農協に５００万円近い債務（年利７．５％）を残していたので（宇宙エネルギーの実用化に必要というので農協から借金までして資金を用意したのですが、その研究者？は行方不明・・・）一括して

3．　４８５万円で債務繰上げ償還（金利がつくので一番早く処置）

当時本渡五和農協手野支所が引越ししてあいた建屋（建坪５０坪２階建、戦前の手野村役場、産業組合事務所だったところ。敷地が中井の土地であったので）を買い受けていたが、その棟瓦の傷みによる雨漏り、白蟻食害などの修繕が必要で更に将来の交流施設化（古本図書館、不用品交換市、木賃宿・・・）に備えたく、

4．　５００万円を交流施設の整備・維持と空港用地の立木伐採・搬出・製材費用に。

5．　残りは固定資産税などの公租公課に

と考えたのですが、実際には支出の内訳にもあるように環境基金分を越える金額をＳＯＳを受けて救援融資に回してしまいました。現在の残高５７９万円余は、元ゴルフ場予定地（’９７年３月に西武鉄道は進出を断念、計画は白紙に戻ったわけで）土地取得資金として留保しておく必要がほぼなくなったことから、交流施設のエネルギー自給化（太陽光発電装置の設置）、施設整備（コンポストトイレ、厨房、シャワー室、薪ボイラー、書架の設置など）、建屋修繕などに用いたく、また融資したお金が戻ってきたら（天草環境基金の使途として）将来は人糞尿の肥料化に取組みたいと思っています。

なお林産物の販売や若干の利用料収入で施設の維持・運営経費を自賄いできるようになるまでの所要資金は区分けしてプールするつもりです。

第17回天草環境会議資料 2000.7月

元ゴルフ場計画用地について

天草立木信託代表　中井　俊作

ワイナリー建設に向けて工事は進んでいるが計画（開発面積約３ヘクタール）以上の拡大は考えにくい

１．自然環境保全の陳情について

別紙は今年３月と６月の五和町定例議会に出された（かつての西部ゴルフ場計画反対地権者の方々からの）陳情書（陳情人の住所・氏名は割愛）です。代表の宮崎　義幸さんをはじめとして、五和側５名、本渡市側５名の計１０名の方が名を連ねています。前々回の五和町議選以来、請願が陳情に変わったものの毎議会に欠かすことなく、（今では公有地となっている元ゴルフ場計画）用地の自然環境保全を訴え続けられて３７回。（こんな陳情を必要とする状況は不本意であっても）時のアセスの対象として認めざるを得ぬ根拠作りのためにも労をいとわぬその姿勢、法治社会に生きる住民の範として敬意を覚えます。９０年６月にリゾート法の指定地域にされたままですから油断は禁物。指定地域住民（特に拠点地域の地権者）として一貫して異議を表明していることを公文書として残すことには深い意味があるわけです。

H14(02)まで

２．ワイナリー計画について

９７年３月西部鉄道がゴルフ場計画を断念、８７年１２月に発表以来の計画は白紙に戻ったのですが、９９年３月には東京の果実酒メーカー：アロマキシムワイン社が、ワイナリー（ワイン醸造工場）の建設で進出することが決まり、本年度（２０００）中に取付道路工事を終え２００１年度には工事建設に着手、２００２年度には開業の予定（当初計画より一年遅れ）とのこと。場所は国道３２４号線が（本渡市から）五和町にはいって間もなくの左手丘陵地。関連施設（観光農園、土産店、公園など）合わせて３ヘクタール程が開発される計画。

天草の土産品として売られているポンカンワインは、このアロマキシムワイン社の山梨県の工場で醸造されている。企画関係者は、ミカン ⟶ ポンカン ⟶ 柑橘 ⟶ ビワ ⟶ ブドウ ⟶ ミカンと地元天草で原料調達して工場の周年操業をはかりたいと考えているが、ワイン用ブドウの産地として立ち上げられるか、その採算性は、と課題は多い。

晩柑

３．天草立木信託（立木トラスト）として

別紙陳情書のようにかつての西部ゴルフ場計画反対地権者は、ワイナリー建設の中止も求めています。ワイナリーとその関連施設予定地はこれら地権者の所有地（ほぼ立木トラスト区域と重なる）にかからないとはいえ、周囲を点々と囲まれているのでこれ以上の用地拡大は難しい。

立木トラストの契約期間は’９３年春から２００３年２月２１日まで。しかしその先も若し乱開発が懸念される場合は、更に１０年間契約を更新できるようになっています。（立木オーナーは新たに一本１０００円の立木代を支払う。）２００人を超える立木オーナー（買受所有者）の立

木が~~357~~本、元のゴルフ場計画用地に散在しているので簡単には手をつけられません。

なお、天草の自然を護る会スタッフの支援を受け、９７年秋に掛札のメンテナンスを実施。その後３年を経たので今秋も支援を願って一回りしたいところです。天草立木信託の事務諸経費用の会計も本渡五和農協手野支所の普通預金口座（名義人：天草立木信託代表　中井　俊作）に’９９年１月１３日時点で２０１，０９９円の残高がありますが、この中から立替金などを精算しても１６万円余は残ります。この先も煩わしい契約更新事務作業を手がけずとも済むように祈るばかりです。

４．この先のこと

”投機”による金融バブルはハジけたものの産業革命以来の”投資”による”産業”バブルの方は景気回復などという延命策がこうじられてなかなかシブとい。この分では機械化・大規模化で大量生産を進めてきた”食糧バブル”のほうが先にハジけるのではないでしょうか。１０年一昔、世の中の雰囲気も変わって来ました。五和町、本渡市、熊本県と関係自治体の首長も変わりました。いずこの自治体も財政難，１５億円余の土地代は荷が重いですが、この土地の持つ公益的機能はその額を上回って余りあるもの。立木トラストなどという見張り番が不用となるよう大切にしていきましょう。

その中には地下ダム機能（豊富な地下水を貯留していること）
└天草で唯一の県地下水保全条例適用区域

～～～ 何故 空港の用地交渉に応ずることにしたか ～～～

1. 計画当初は強硬に反対
   公共投資をするなら優先すべきことがある
   交通格差（空港）よりも 情報格差（通信）の解消を … 全島CATV網
   - あえて不便な立地条件をこそメリットとする
   - バブルのお金の動きを強く警戒（福田マネー：空港の実現性は福岡の動きに直結）

2. 天草考創シンポジウム ’90.4月～12月 計4回，運輸省公聴会（11/30）にては
   基本的に反対（ゴルフ場計画を断念するなら交渉に応ずる）
   - ’91.4月 現職町長三選（中井は1/3の得票 … 選挙費用30万円）
     ⋮膠着状況の打開をはからんとした地元県議との話し合いの席で
     「ゴルフ場も空港もというのなら 空港の方はどうぞ強制収用して下さい」
   - ’93.春，高令の反対地権者を慮り 立木トラスト実施

3. ’94.6月，開発計画の大中な遅れから町長引責辞任
   7月．告示された町長選立候補にあたり記者会見にて
   バブル経済は潰え，リゾート構想も事実上坐礁，ゴルフ場計画は実現困難と判断，天草ならではの里山・田園・海浜生活文化圏を築き上げようとの施政三本柱（1：ゴルフ場計画に変えて天草再生の核となる”新天草草林”の建設，2：条件不利地域のモデルとなるような町作り，3：都市と農山漁村の住民交流をはかる民泊・滞在型リゾートの実現）を語ると共に選挙結果に関わりなく用地交渉に応ずると表明，合わせて補償金の使途の公表を約束。